第20号　2022.4.1

栃木市 教育委員会だより

発行：栃木市教育委員会
住所：栃木市万町9-25
電話：0282－21－2467
FAX：0282－21－2689
Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp

栃木市立文学館

令和4年4月27日(水) 開館

栃木市立文学館は、市ゆかりの作家である山本有三、吉屋信子、柴田トヨの3人を中心とした文学に関する展示や、市史に足跡を遺（のこ）した先人たちの紹介をする資料館です。

建物は、平成26年まで市役所別館として使われていた市指定有形文化財 旧栃木町役場庁舎を、現存する資料や建物に残る痕跡に基づいて修理・復原しています。

大正浪漫が漂う雰囲気の中で、文豪たちの生き方や世界観に触れ、語り掛けていることばに耳を傾けてみてください。

栃木市教育のスローガン

「ふるさとの風土で育む 人づくり・まちづくり」

～とちぎ未来アシストネットの推進～

‘とちぎ未来アシストネット’とは、学校・家庭・地域の連携により、地域ぐるみで子どもたちの「生きる力」を育むとともに「地域の活性化」を図る本市独自の教育システムです。

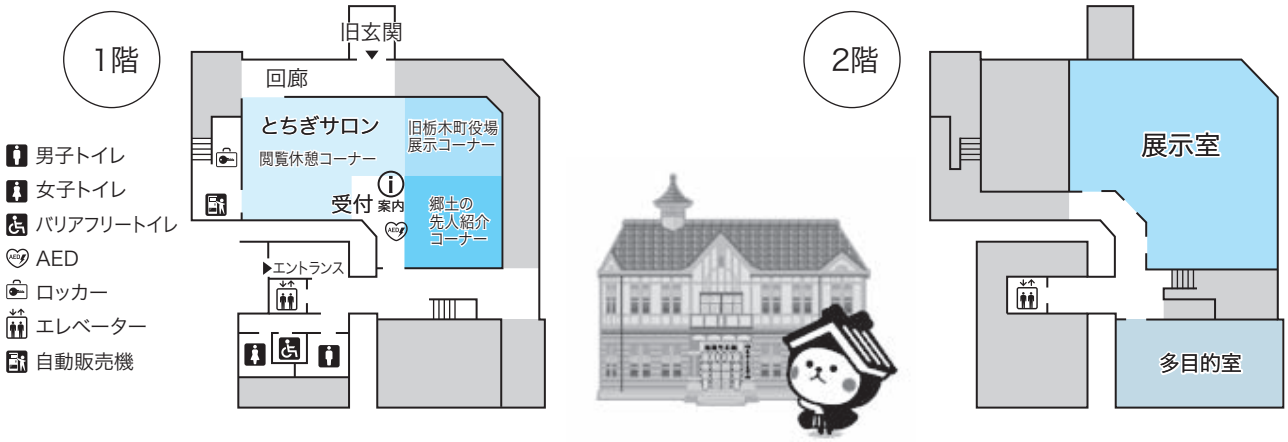
栃木市教育ニュース

教育委員会では、生涯学習を基盤とした社会の構築を目指して、本市ならではの教育を推進しています。今号の『栃木市教育ニュース』では、4月27日に開館する「栃木市立文学館」を紹介します。

栃木市立文学館（市指定有形文化財 旧栃木町役場庁舎）の概要

この建物は、大正10年（1921）、かつて県庁が置かれた県庁堀のほとりに、当時の栃木町役場として建てられ、100年にわたって人々の暮らしを見守ってきました。

この度、「とちぎの歴史・文化・芸術を、みんなで楽しみ、広め、創る拠点」をコンセプトとして、「栃木市立文学館」に生まれ変わりました。



とちぎサロン（旧事務室）・回廊（旧公衆廊下）

日立製作所の創業者 小平浪平、ビール麦の父 田村律之助など、市の歴史に足跡を遺した先人たちに関する展示と、旧栃木町役場庁舎に関する展示を見ることができます。

また、文学・美術などに関する図書の閲覧や、まち歩きの際の休憩場所として、どなたでも無料で利用することができます。

展示室（旧議場）

とちぎゆかりの作家である山本有三、吉屋信子、詩人の柴田トヨの各氏を中心に、市ゆかりの文学に関する常設展示を見ることができます。

多目的室（旧貴賓室）

特別に企画した展示を見たり、文学講座などを体験することができます。

開館時間 9時30分～17時（4月27日のみ午後1時開館）
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日に振替）、祝日の翌日（土・日・祝日の場合は開館）
年末年始（12月29日～1月3日）、展示替えなどのための整理期間

～先人の魅力にふれ、対話してみませんか～

栃木市立文学館が今春開館します。これに先立ち1月9日（日）に開催された“令和4年栃木市二十歳の集い”を記念して、同日に文学館を特別公開しました。大正浪漫が薫る建物の中で多くの方々から感嘆の声が館内に響きわたりました。平成30年より初めての大改修に着手し、建築から百年を経て、歴史と文化の詰まった「栃木市立文学館」として生まれ変わりました。改修前は、栃木町役場・市役所として市民に広く親しまれた洋風建物でした。「特別展」「常設展示」「コーナー展示」などで郷土が誇る先人を紹介しながら、山本有三、吉屋信子、柴田トヨらが生まれ育った栃木の街に視点を当て、当時の街並みや生活が各作家の作品に与えた影響について紐解いています。「とちぎサロン」でくつろぎながら、先人の魅力にふれ、対話してみませんか。お待ちしております。

教育長職務代理者　後藤　正人

教育委員の活動日誌

教育委員は、栃木市の教育の充実のため、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な活動に積極的に取り組んでいます。今号の『教育委員の活動日誌』では、その一部を紹介します!

総合教育会議

総合教育会議は、市長と教育委員会がより一層連携して教育行政を推進するために、年2回開催しています。

人の運命は決して平等ではない。けれど、ほぼ誰しもが母親のやさしさと喜びに包まれながらこの世に生まれてくる。母たちは、わが子がどのように生まれどんな風に育っても、その命を守り、心で寄り添い、無償の愛を与え続ける。落ち込んだり、悩むこともあるだろうけれど、わが子の前ではとびっきりの笑顔だ。現在の栃木市総合教育会議は、市長、教育長を中心にその母たちが熱心に議論する場となっている。

教育委員　福島　鉄典

学校訪問

「こんにちは!」と元気な声で迎えられ、毎回楽しみにしている学校訪問が始まります。校長先生から説明をいただき、授業見学開始。各学級の掲示物も楽しみの一つです。それぞれの個性が出ていて面白いです。子ども達とのおしゃべりや会食が一日も早くできるようになることを願っています。

教育委員　西脇　はるみ

直接学校の様子を知る貴重な事業です。校長先生の話を伺い、学校の現状や特色、地域の様子を知ることができます。また、子ども達の学ぶ姿や熱心な先生方の指導を観て、教育委員としての仕事の在り方や学校教育の中で大切なことを改めて考える機会となっています。

教育委員　大橋　孝子

タブレットを使用した授業では、教科書や資料集のQRコードを読み取り、映った画像を拡大して細かいところを発見したり、大きなモニターでみんなの問題の解き方を見て、考え方がいっぱいあるねと目を輝かせていた姿が印象的でした。

「こんにちは」と明るい挨拶の子ども達から元気をもらった学校訪問でした。

教育委員　舘野　知美

（写真：藤岡小学校訪問時の様子）

学校現場への理解を深めるため、年間複数の学校を訪問しています。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、1年ぶりの実施となりました。

地域に根ざした学校給食

栃木市マスコットキャラクター とち介

学校給食では、地産地消の推進を図るため栃木市の食材を積極的に取り入れています。令和3年度は、地元企業や栃木農業高校と連携し、おいしい食材を小中学生に味わってもらいました。

【令和３年度に新規導入した食材】
☆栃農高産の米・豚肉・野菜・味噌　☆大平産のカクテルトマト
☆岩舟産の梨ジェラート

栃農高産食材を使用した給食

梨ジェラートを味わう岩舟中の生徒たち

コロナ禍で前向き給食実施

学校給食では、昔から伝わる郷土料理も提供しています。毎年2月には『しもつかれ』が給食に登場します。

関東平野北端の平野と水とが、特上の米と野菜、実は隠れた名産である蕎麦と、栃木の子どもたちを育てています。

野菜たちはすられ、酒かすとぺちゃぺちゃ煮込まれ、あのシモツカレに変わりますが、この地元栄養食が辛抱強い栃木人の血肉になっている、ということは秘密です。

教育委員　林　慶仁

教育長通信 ～SDGsな日常を～

※ SDGsカラーホイール

「ねぇ、そのバッヂなあに？」ある小学校を訪問したときのことです。廊下ですれ違った一年生の男の子に、私が胸に付けていたSDGsの達成目標を示す17色の丸いバッヂを指差しながら聞かれました。不意を突かれてしばし返答に窮した後、「このバッヂにはね、地球上の誰もが安心して生き続けられる、そんないい世界にするためにみんなで力を合わせていこう!という思いが込められているんだよ」と答えました。「ふぅん…」と言いながら、私の顔を見上げている男の子の澄んだ瞳が今でもはっきりと脳裏に焼き付いています。

ここ数年、様々な場面でSDGsが取り上げられるようになりました。SDGsとは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015年に国連で採択された、2030年までに達成すべきと掲げられた17の目標です。いくつか例を挙げると、「貧困をなくそう」、「ジェンダー平等を実現しよう」、「住み続けられるまちづくりを」、「気候変動に具体的な対策を」、「平和と公正をすべての人に」などです。これらの目標は、開発途上国や先進国といった枠を取り払い、全ての国々、全ての人類を包括した考え方に則り、人権や地球そのものを守りながら持続可能な世界を実現するために必要な行動変革を訴えています。

現在企業や行政では、日々の活動をSDGsに関連付けたり、社会貢献活動を積極的に展開する向きが増えています。そんな中、2020年度･2021年度に全面実施となった小･中学校の新学習指導要領には、「持続可能な社会の担い手を育てることを目指す」との趣旨が謳われており、学校現場においてもSDGsの実現に向けた教育が求められています。

「では、どんなことをするの?」「また新たな教育改革?」との声が聞こえてきそうです。しかし、そんなに肩肘をはることはありません。なぜなら、それぞれの目標に迫るために必要な基本的な学習内容の多くは、現在行われている教育に含まれているからです。ですから、新たな教育ではなく、各教科･領域等における教育内容を、SDGsの視点で改めて捉え直してみること、そして、各教科等の枠を越えて横断的かつ系統的にそれらを深化･拡充させることがポイントと思われます。

そもそも教育は、学校のみならず家庭や地域、延いては社会全体で行われるべきものです。先ずは我々大人たちがSDGsの趣旨を理解し、日々の生活の中で自分にできる小さな実践を積み重ねること。その姿を通じて、子どもたちに範を示したり考えるチャンスを与えることが大切なのではないでしょうか。

「澄んだ目をした幼い子どもたちに持続可能な世界を、地球を残す!そして同時に、その担い手としての素地を育む!」先の小学一年生との短いやりとりから、意を新たにした私でした。

教育長　青木 千津子

【編集後記】

“教育委員会だより 絆 ” は市民の皆様に、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’ としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想は
こちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課　〒328-8686 栃木市万町９-25
電話：0282-21-2461 FAX：0282-21-2689　Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp